



Title	巻頭言：大学と臨床の連携と協働
Author(s)	福岡, 富子
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2001, 7(1), p. 3-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56764
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

巻 頭 言

大学と臨床の連携と協働

Interlocking And Mutual Feedback Among Education, Research And Clinical Practice

今、病院に求められている大きな課題は、経営改善、リスクマネジメント、情報開示への取り組みであろう。このように、病院を取り巻く状況が厳しさを増す中、看護職員にはそれぞれの立場で病院改革・改善への意識を高め努力する一方で、さらに質のよいサービスを提供することが求められている。

ケアの質を保障しさらに高めて行くためには、真に看護の専門性を発揮できるナースの育成が不可欠である。臨床の場では専門看護師や認定看護師を確保したり、病病・病診連携を強化するナースを登用するなどの努力は可能であるが、各々の専門ナースの能力をさらに高め、実践の場で最大限活用するには限界があることはまぎれもない事実である。つまり、専門看護師や認定看護師等に、学んだ知識や技術を駆使してすぐに横断的な活動を求めることは適当でなく、育成しながら活動を推進することが欠かせないと考えているが、この育成と活動の推進をサポートできる人材に限界があるということである。

このような臨床の場での限界を埋めるためには、看護の実践力があり、かつ教育・研究にすぐれた業績を有する大学の教官との連携と協働が最も有効であると確信している。大学の教官が病院の専門ナースと共に、各々の専門領域での知識や技術を実際の看護場面で提供することにより、臨床側のケアの質向上が大いに期待できる。加えて、実践した活動は効果があったかどうかなど、研究を通して必ず実証されなければならない、この点も期待するところ大である。

大学と臨床が連携を強化し協働することは、単に臨床側の充実と満足にとどまることを意味してはいない。大学の教官が臨床の場で機能するということは、臨床側とのよりよい人間関係の成立を促進するとともに、教官の実践能力を維持することも期待できる。このことは学生に効果的で良質な教育の提供に必ずや繋がるであろう。また、制約や限界をとまなう研究において、臨床と共同して研究することにより、それが緩和されることも期待できる。

以上述べたように、大学と臨床が連携し協働することは、臨床の場でのケアの質向上、学生教育の充実、さらには研究の推進等、大学と臨床相互に大変意味のある戦略であると確信する。臨床の場と教育・研究の場との乖離が懸念されている昨今、連携と協働を推進することはたやすいことではないが、したたかにそしてしなやかに実現に向け努力していきたい。

平成13年1月

大阪大学医学部附属病院

看護部長 福岡富子